国産LLM「PLaMo 3.1 Prime」知財業務での活用と使い分け



PLaMo 3.1 Prime
（オンプレ閉域環境）

社内文書の横断調査や大量の特許公報の一次要約に最適（適性：◎）

オンプレ閉域環境により、未公開技術情報を安全に読み込ませて調査・要約が可能です。



法的判断や高度な推論が必要な業務には不向き（適性：△〜×）

クレーム解釈や拒絶理由への反論論理の構築、FTO調査は補助的な役割にとどまります。

知財AI活用の「3系統の使い分け原則」

社外不可の機密情報
：PLaMo（オンプレ環境）



未公開発明提案書や社内技術資料の検索・分析を完全に自社内で処理します。

高度な推論・思考
：海外フロンティアモデル



学習に利用されない契約のもと、論理的推論や高度な文章解釈に活用します。

網羅的な特許検索
：商用特許データベース



母集団の形成や確実性が求められる先行技術調査は特許専用ツールを使います。

Gemini Notebook